

米野々森林研究センターにおける珍虫“ヒラズゲンセイ”の採集報告*1

山 迫 淳 介*2・高 松 陽一郎*3

ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* (Olivier, 1792) は、ツチハンミョウ科の甲虫で、東南アジアから日本まで広く分布し、真っ赤で鮮やかな色彩が特徴の大型甲虫である。その体液には有毒物質のカンタリジンが含まれ、皮膚に付くと、かぶれや水ぶくれなどの炎症を起こすため、衛生害虫でもある。本種は、国内では高知県ではじめて発見され、その後、高知県や徳島県で多数記録されているが、他地域ではわずかに知られている程度であった。しかし、近年になって四国のみならず、九州や関西地方にまで急激に分布を広げていることが知られており、地球規模の温暖化との関連が示唆されている（初宿，2008）。

松山市では、2008年にはじめて見つかって以降、市内平野部で点々と記録されているが（梅木，2009；山本，2010；吉富，2012），2011年に愛媛大学農学部附属演習林・米野々森林研究センター敷地内（松山市大井野町）で1♂（図1）を確認したため、ここに報告する。本種の松山市内におけるこれまでの記録は、平野部のみであり（吉富，2012），同センターは、標高約400mに位置する山間部であるため、今回の記録は松山市周辺における本種の分布拡大において興味深い記録であると考えられる。



図1. 米野々森林研究センターにて採集されたヒラズゲンセイ



図2. 米野々森林研究センター周辺の森林環境（センター敷地内で撮影）

*1 Discovery report of a rare insect species "Hirazugensei", a kind of a blister beetle, at the Komenono University Forest Research Center
*2 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 特定研究員 Faculty of Agriculture, Ehime University
*3 農学部技術室 技術専門職員 The Ehime University Forest

本種は、キムネクマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolas* (Smith, 1873) の巣に寄生することが知られており、卵から孵化した1齢幼虫は、クマバチの体にしがみつき、クマバチとともに移動する。そのため、クマバチが営巣できる環境さえあれば、自然度が低い環境でも繁殖し、分布を拡大できるものと考えられる。松山市内でも道後公園等で複数確認されており（吉富，2012），市街地周辺の発生地では民家や公園，寺社等でも普通に見られることがある。今回新たに確認された米野々森林研究センターは，天然性二次林とスギやヒノキの人工林に囲まれており（図2），クマバチが営巣するのに十分な環境が整っていると考えられる。また，ヒラズゲンセイは，発生しているクマバチの巣の周辺で見つかることがほとんどであるため，当センター周辺にて発生している可能性が高いと考えられる。ヒラズゲンセイは，その特徴的な色彩から，発生地では目撃報告も少なくない。今後も当センター周辺にて継続発生する可能性が高いため，発生状況や発生源の特定など，以後の追加調査，報告が期待される。

末筆ではあるが，報告にあたり，ご助言を頂いた環境昆虫学研究室の酒井雅博教授，吉富博之准教授に厚くお礼申し上げます。

標本データ

1♂，愛媛大学農学部附属演習林・米野々森林研究センター（標高：約400m），大井野町，松山市，19.V, 2011，高松陽一郎採集。（愛媛大学ミュージアム所蔵）

参考引用文献

- 1) 梅木 要，2009. ヒラズゲンセイ松山市に現る. 愛媛の虫だより，(105) : 8.
- 2) 山本 栄治，2010. 松山市でヒラズゲンセイを採集. しこくげら，(7) : 36.
- 3) 初宿 成彦，2008. ヒラズゲンセイの温暖化による北上と生活史. 昆虫と自然，43 (12) : 9-12.
- 4) 吉富 博之，2012. ヒラズゲンセイの松山市周辺における採集記録 (2010年). 四国虫報，(43) : 28.